

シンポジウム「格差の解消を実現できるポスト MDGs をめざそう！」報告

【会議概要】

日時：2013年3月20日 13:30～16:30 場所：東京国際フォーラム

総合司会：三好知明（JAIH）、 パネルディスカッションファシリテーター：田和正裕（JICA）

基調講演 津山直子（関西大学客員教授）

パネリスト発表

- 1) 「教育と格差」 三宅隆史（教育協力 NGO ネットワーク 事務局長）
- 2) 「ジェンダーと格差」 斎藤万里子（Gender Action Platform プログラム担当）
- 3) 「保健と格差」 稲場雅紀（動く→動かす）

【発表要約】

経緯：これまでのパネルディスカッションなどでの議論の分析から、「不平等」「格差」が課題であることが明らかとなってきたしており、本日のシンポジウムの開催に至った。今後、これまでの議論および本日のシンポジウムを踏まえて、外務省を通じて、ハイレベルパネルへのインプットをめざしていく予定である。

基調講演：「グローバル化で拡大する格差とポスト MDGs」

80年代のアパルトヘイト撤廃運動からアフリカ支援に携わってきたが、南アフリカでは、1994年の民主化以降も、格差の問題は深刻である。アフリカの農業は、小規模農家が殆どだが、そこに中進国を含めた外国からの「農業投資」で、食料不足のアフリカで、土地がアフリカ以外に買われる『土地収奪』の課題がある。また、遺伝子組み換え農作物についての十分な情報提供がないままに、援助で種子や農薬が配布され、伝統的な農業が崩壊するケースも増えている。『食料安全保障』ではなく、自分たちが何をやるか、何を食べるか、どのような支援が必要かを尊重する『食料主権』が重要であるという声がある。開発のなかで『富』『経済』への偏重の反省が MDGs 開始の時にはあったはずであるが、経済危機の後、後戻りしていないか、格差社会を助長していないか、という危惧をもっている。「経済」「社会」「環境」の3つのバランスをとることが、持続可能な開発の上で重要で、食料、土地、水、エネルギーへのアクセスを格差の底辺にいる人々を含めて保障することが必要。『援助』の視点から地球に住む者が同じ課題や希望を共有する『連帯』への転換が求められている。民間企業・官民連携による開発が増えており、透明性・民主制を確保した投資を促進する確固としたルールが必要。5～10年でなく、50～100年後を見据えることが大切である。

1) 「教育と格差」

2000年にセネガルの世界フォーラムで合意された Education for all の目標のうち2つが MDGs に採用されているが、1990年の時点で既に 2000年を期限とする初等教育の完全普及が設定されていた。国際社会は先延ばしにしてきた経緯がある。初等教育の完全普及は MDGs の中でも進んでいるとされるが、2008～2010年にかけては進捗がみられていない。対策が進んでくると投資効果が減少し、格差に焦点が当たるのは当然の経過といえる。これを乗り越えるためのインクルーシブな教育では、①アクセスと経済負担、②権利と機会（制度面）、③学習環境（学校の中）に取り組むことが必要である。また、格差に取り組むためには、ターゲットを相対値でなく絶対値で評価し、ゼロに設定する、また全ての目標に格差についてのターゲットを設けるなどの取組が必要である。

2) ジェンダーと格差

『格差 (Gap)』と『不平等』の関係について、『不平等』が『格差』の原因であり、ジェンダー格差についても同様。ジェンダーによる不平等は、MDGs が対象としている分野のほか、『平和・安全』『防災』『気候変動』などを含めたあらゆる分野に存在する。ジェンダー平等は、基本的人権であり、同時に、MDGs の経験からも開発効果を高めることが立証されている。但し、ジェンダー不平等による格差を埋めるには、「ジェンダーの主流化」に加え、現存する格差を埋めるために女性のエンパワーメントが必要であり、意志決定プロセスへの女性の「意味のある」参加、資本・教育・雇用等さまざまな機会へのアクセスの確保と能力向上が求められている。またリソースの投入が非常に重要。MDG 3が設定されたことでジェンダーへの資金

が増加したと認識。また、MDGs 唯一の「平等」を掲げたゴールの知見・経験をいかし、ポスト MDGs でも単独ゴールとして設定するほか、他ゴールへのジェンダー視点の主流化を促進することが求められている。

3) 保健と格差

保健における MDGs の出発点は、途上国と先進国の『いのちの格差』をなくすことであり、格差是正にある程度の効果を出してきた。特に HIV エイズは市民社会の声が大きかったこともあり、大きく前進した。2002 年の時点で 22 万人しかアクセス出来なかった HIV 治療に、現在 650 万人がアクセスしている。MDGs の進捗については、「共有された責任」である以上、市民社会にも責任がある。一方で、エイズの資金を小児下痢症に廻せば、もっと多くの命が助かる、といった保健内の格差の議論もある。また、高齢化と NCDs を巡る問題について考えれば、「平等」「格差を埋める」と考える場合にも、単純に「先進国のようになればよい」というわけではなく、十分な検討が必要である。保健については、最近、『ポリオ根絶』をはじめ、重要アジェンダが頻繁に移り変わる傾向がある。「何が大事」ということから、腰を落着けたビジョンをもった取組が求められる。

<パネルディスカッション>

パネルディスカッションでは、ファシリテーターより 3 つの質問が投げられた。最初の『格差はどのような形で存在するのか、どのような原因で生まれるのか』という問いかけに対しては、資本主義という経済枠組みの課題や、中南米での社会開発へ投資など新たな取組が議論された。また、ジェンダーに関しては既存の構造では女性の声が反映されないこと、既得権を守ろうとする抵抗勢力の問題などが取り上げられた。教育に関しては、貧しい家に生まれても教育を受けることにより所得の良い仕事につける可能性がある反面、教育は格差を生む機能もある点が指摘され、格差の原因として 4 つのギャップ (①政策のギャップ、②資金のギャップ、③能力のギャップ (制度として)、④データのギャップ) があることが紹介された。また、格差に目が向けられるようになったことから格差の分析の重要性についても指摘された。

『格差を是正するためのアプローチは何か』という 2 番目の問いかけに対しては、格差の中で声を上げられない人の声を拾い、連帯して格差を是正していく市民社会の役割や、平等を議論する上でのライツ・ベースド・アプローチの重要性、MDGs の弱点として指摘されるアカウンタビリティの必要性などが議論された。一方で、格差は主要には経済の問題であり、保健や教育で格差を無くすことは出来ないものの、富の再分配やエンパワーに繋がることなども指摘された。

『格差の問題に対して、ポスト MDGs が果たす役割は何か』という 3 つめの問いかけに対しては、経済は幸福度に直結することから、雇用や経済的な格差を是正する視点を、グローバルな政策のなかで位置づけていくことや、不平等を解消することが中心的な内容となることが期待されることなどが議論された。ジェンダーの課題でも雇用や経済は重要である点や、MDGs は途上国だけのものではなく、特に日本はジェンダーについて取り組むべき点などが指摘された。また、MDGs では、すべき事に取り組んできたが、ポスト MDGs では、すべきではない事についても取り組むべきで、土地の収奪に関するルールの策定の必要性などが例示された。

会場との議論では、不平等を突き詰めていくと、税制や雇用など、国内政策に行き着くことから、具体的な内容になると、内政干渉に繋がる難しさが問題提起され、不平等が命に関わることがあること、また連帯して中から変えていく必要性などが議論された。ガバナンスについての議論では、ガバナンス、アカウンタビリティ、トランスパレンシーはポスト MDGs においても必須である反面、特権階級が、格差是正の動きを攻撃する理由に、ガバナンス、アカウンタビリティが用いられる場合もあり、注意が必要。また脆弱な国ほど、ガバナンスの問題は深刻で難しいが、アフリカではピアレビューの動きがあり注視していることなどが共有された。富の再分配の議論では、国内での再分配に加えて、国際連帯税のように、グローバルな富の再配分の仕組み作りの必要性なども提示された。

また、「格差」への問題は、「poorest of the poor」の社会的弱者に配慮し、貧困問題に正面から取り組むという新たな MDGs にとって非常に重要な点であるが、対象となる人々と同様、対応すべきアプローチも多様。このため、「格差」問題への視点は、すべての課題や目標に含まれるべき視点であること共有された。

最後に、事務局を代表して謝意が表され、シンポジウムは閉会した。